

SHIMOGAMO JINJA

月と人、
千年の調べ、
下鴨の杜に

令和八年

名月管絃祭

奉納演目

下鴨神社

SHIMOGAMO JINJA

月明かりのもと、いにしえの調べ

奉納演目

一、管 絃 平安雅楽会奉仕

五常楽急（ごしょうらくきゅう）／陪臚（ばいろ）

雅楽では、音楽のみを演奏するものを「管絃」、舞を伴うものを「舞楽」と呼ぶ。
管絃曲の中からよく親しまれている「五常楽」と、躍動感のある「陪臚」を演奏する。

二、尺 八 新都山流奉仕

本曲「懐月調」（こうげつちょう） 流祖 中尾 都 山 作曲

冴えわたる秋の月を仰ぎ、胸に秘めた嘆きを切々と綴った曲である。月の出を待つ静寂、やがて中
天に輝く月への悲痛な訴え、そして残月を仰ぎ、消え入るような思いを抱く。月の移ろいに重ねて
揺れ動く心の内を描いた、変化に富んだ曲となっている。

本曲「十五夜によせて」（じゅうごやによせて） 流祖 中尾 美 都 子 作曲

「うさぎ うさぎ なにみてはねる 十五夜おつきさま みてはねる」
幼い頃、十五夜の月を眺めながら心に描いた、楽しそうに跳ねるうさぎ。その懐かしい記憶と月夜の幻想的な情景を表現した曲である。

奉納演目

三、箏 曲 琴綾会 錦社中奉仕

日本の歌

ふるさと（岡野貞一作曲）

もみじ（岡野貞一作曲）

竹田の子守唄（京都・竹田地域の伝承民謡）

韓国ファンタジー（砂崎知子作曲）

韓国の民謡「アリラン」のメロディーをモチーフに哀愁と韓国の人達の明るさを
盛り込んで作られ
た楽曲。

君をのせて（久石譲作曲）～「天空の城ラピュタ」より

四、国 風 歌 舞 下鴨古楽会奉仕

十二単の王朝舞（じゅうにひとえのおうちょうまい）

平安装束である十二単をまとった巫女が、雅楽の中でも広く知られる「越殿楽」
に合わせて舞う王
朝舞。華やかで優美な装束と雅楽の調べが織りなす、平安の宮廷を思わせる雅や
かな舞である。

奉納演目

五、筑前琵琶 京都旭城会奉仕

茶絃録（ちゃげんろく）

天正十五年の北野大茶湯を舞台に、茶道の精神と美学を描く物語である。秀吉が主催した盛大な茶会の情景や戦を離れて風流に親しむ武士の姿、そして九州・箱崎の松原に始まる「野点」の由来を綴っている。千利休の卓越した技と、彼が築き上げた茶の道が「茶道の精神」として末永く語り継がれることを称える、優雅で気品のある一曲となっている。

熊谷と敦盛（くまがいとあつもり）

一の谷の合戦で、源氏の武将・熊谷直実は平家の若武者・敦盛を追い詰め、我が子と同年の敦盛を助けようとするが、軍律の情に耐えず涙を飲んで討ち取る。遺品の笛から昨夜の調べの主が彼だと知り、世の無常を悟った直実は、出家して法然の弟子となり「蓮生」として敦盛の菩提を弔う一生を誓う、平家物語屈指の悲劇である。

奉納演目

六、舞 楽 平安雅楽会奉仕

白拍子（しらびょうし）

平安時代から鎌倉時代にかけて成立した歌舞、またはそれを演じる女性芸能者のこと。烏帽子、狩衣、帯刀などの男装で舞を舞い、芸能活動が盛んであった都では人気の白拍子は大きな名声を得て貴族や武家の屋敷に招かれることもあった。「平家物語」にも登場し、平清盛の寵愛を受けた祇王や源義経の寵愛を受けた静御前などが有名である。

登天楽（とうてんらく）

我が国で作られた曲といわれているが、作者は不明で、伝承も少ない曲である。天を目指して昇っていく龍の姿をかたどった舞であるという説もある。舞人は袍に一對の向い獅子の文様が描かれた蛭絵装束を着て舞う。

蘭陵王（らんりょうおう）

中国大陸から伝来した舞で、古代中国・北齊の将軍、蘭陵王長恭にまつわる故事を題材とした舞楽である。蘭陵王長恭は非常に美しい容姿であったため、戦場に赴く際には、いかめしい仮面をつけて戦い、多くの武勲を立てたと伝えられている。人々はその武勇を喜び祝うためにこの舞を舞ったとされる。日本の切手にも描かれた、代表的な舞楽の一つである。